

コンテナ船輸送：間もなく冬の到来！

こちらは、英文記事「[Container Shipping: Winter is coming!](#)」（2021年10月7日付）の和訳です。

コロナ禍でコンテナ船業界は激動が続いています。この状況を海運危機と呼ぶ人もいれば、未曾有の好市況と見る人もいますが、波乱含みの市場は高い代償を伴うため、今こそしっかりとした対応が必要です。



コンテナ船市場

新型コロナウイルス感染症の流行が始まると、モノの生産・取引は急速に落ち込みました。その後のV字回復は物流企業やコンテナ船社にとって朗報ではありましたが、見方によっては、この状況をコンテナ船輸送の危機と呼ぶ人もいます。アジアや米国、欧州の主要港では、感染拡大とそれに伴うロックダウンにより労働者不足となり、物流が滞る事態となっています。ターミナルの一時閉鎖や大規模な滞船に見舞われている港や、空コンテナが不足している港もあり、船積みがキャンセルになった荷送人は頭を抱えています。スエズ運河で起きた座礁事故も物流の混乱にさらに追い打ちをかけました。欧州や米国では各種消費財がとにかく手に入らない状況となっており、アナリストは今年のクリスマス商戦に影響が出るのではと懸念しています。

ただ、コンテナ船社にしてみれば、現在は輸送需要が過去最高を記録している状況と言えます。輸送費用が急騰し、昨年はコンテナ1本当たりの運賃が600%上昇した地域もあります。これは業界にとっては決算の好材料になるでしょう。今なら、コンテナ船を1隻購入しても東西航路に数航海投入するだけで費用を回収できてしまうかもしれません。問題は、十分な数のコンテナとスロットの確保です。最近ではブッキングが埋まるのが早くなっているためです。数量的にも重量的にも積載可能本数の最大化に取り組んでいるところです。

マイナス面

変化が早く収益性の高い市場では、つい楽をしようとしがちです。ところがコンテナ船輸送では、貨物の品質が悪く、固縛も甘く、しかも中身が申告内容と違ったことが原因で、これまで大規模な火災がたびたび発生してきました。今年も例外ではありません。ニュースになるのは大規模で深刻なものだけですが、かなり多くの事故やヒヤリハットが起きています。こうした事故を防ぐには、荷送人や積付プランナー、貨物専門家、コンテナ船社が手を抜いてはいけません。隅々にまで目を光らせるこ

とが必要です。物流において、つまりコンテナのブッキングや輸送を行う際は、手抜きは許されないのでです。

需要の急増した市場では、斬新な発想が常に求められます。その一例として、ばら積み船など他の船種でコンテナを輸送できないかという問い合わせが、Gardにも多数寄せられています。このような輸送は可能ではありますが、船級と旗国からの承認など、必要な対応を把握しておかなければなりません。詳しくは、先日公開したばかりの記事「[ばら積み貨物船でのコンテナの輸送](#)」をご覧ください。

最後に忘れてはならないのは、海上へのコンテナ流出についてです。昨冬は過去最悪のシーズンとなり、多数の荷崩れ事故が発生しました。昨シーズン発生した事故の中には、流出本数がそれまでの同様の事故をはるかに上回ったものもあります。こうした事故には、環境破壊や回収費用、責任、当局からの要求、世間に対するマイナスイメージなど複雑な問題が伴い、深刻な事態を引き起こします。コンテナ輸送で収益を得るには、高い代償が伴うのです。

そのため、十分に注意を払うことが必要です。ツイストロックをチェックし、ラッシングギアの増し締めを行いましょう。冬は間もなくやって来ます。

コンテナ流出・荷崩れ事故の原因と、それに伴い発生する責任について取り上げた記事：

<https://www.gard.no/web/updates/content/30622724/-why-do-containership-stacks-collapse-and-who-is-liable-japanese-html>

コンテナ船火災と変革の必要性について取り上げた記事：

<https://www.gard.no/web/updates/content/30764585/--containership-fires-keeping-up-the-pressure-for-change-japanese-html>

本情報は一般的な情報提供のみを目的としています。発行時において提供する情報の正確性および品質の保証には細心の注意を払っていますが、Gardは本情報に依拠することによって生じるいかなる種類の損失または損害に対して一切の責任を負いません。

本情報は日本のメンバー、クライアントおよびその他の利害関係者に対するサービスの一環として、ガードジャパン株式会社により英文から和文に翻訳されており、翻訳の正確性については十分な注意をしておりますが、翻訳された和文は参考上のものであり、すべての点において原文である英文の完全な翻訳であることを証するものではありません。したがって、ガードジャパン株式会社は、原文との内容の不一致については、一切責任を負いません。翻訳文についてご不明な点などありましたらガードジャパン株式会社までご連絡ください。